

令和3年度 読書感想文コンクール 入賞者紹介～中学生・高校生～

		最優秀賞	優秀賞	佳作
中 学 校	1年	松浦健太 『竜とそばかすの姫』 を読んで	加藤みひろ 『十字架』を読んで	伊藤 權 『ホームレス大学生』 を読んで
	2年	佐々木 爽 汰 『ドクター・デスの遺産 刑事犬養隼人』を読んで	井川 未 羽 『君は月夜に光り輝く』 を読んで	三 森 遥 歌 『52 ヘルツのクジラたち』 を読んで
	3年	目黒好香 人間の生き方とは何か	福居 柚 乃 『流浪の月』を読んで	伊藤 翠 あなたは虐待をなくすために 何をしますか
高 校		福井大翔(3年) 『「のび太」という生き方』を 読んで	内藤佳菜絵(2年) 『神様の願いごと』を読んで	石森咲貴(1年) 『キッチン』を読んで

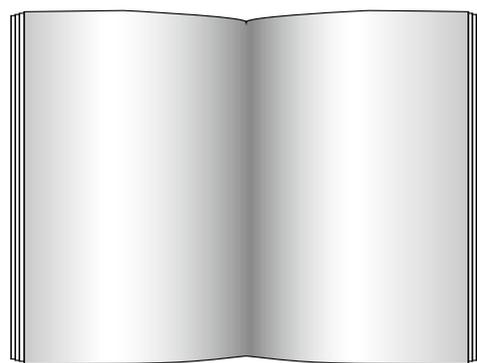
私がこの本を読んだ理由は、本を探しに本屋に行ったら、この本が目にとまり、「この本で書いたら面白そうだな」と思ったからだ。

また、物語の本にもチャレンジしてみたいとも思い、この本を選んだ。

私がこの本を読んで最初に感じたことは、「インターネットの恐ろしさが強調されている」ということだ。私もそのインターネットを利用して

『竜とそばかすの姫』
を読んで

月形中学校1年
松浦健太



いる人たちの一人で、普段インターネットを利用してると、動画のコメントなどで暴言を言っている人を見て「どうしてこんなことをするんだろう」と思うこともある。この本にも、仮想世界の中で特定の人に対して否定的な発言をする人たちがいて、「まるで現代のインターネットのようだな」と感じた。

私がこの本を読んで感動したことや心に残ったことは二つある。一つ目は、最初は現実世界に心を閉ざしていた主人公の鈴が、仮想世界「U」や友達との関わりを通じて心を開いていくことだ。私は幸いにも周りの人間関係に恵まれていて、幼い頃に母親を失った鈴の気持ちを推し量ることは極めて難しい。しかし、そんな中現実世界に心を開いていった鈴を心から尊敬するし、私も周りの人間関係が恵まれていたことが当たり前ではないということも忘れず、感謝していかねばいけないと思った。

二つ目は、現実世界では「そばかす」だらけで幼い頃は大好きだった歌が歌えなくなっ

てしまった鈴が、仮想世界「U」では美人で歌が上手い大人気のアバター「ベル」になったことだ。私はこのシーンを見て、見た目に自信がない人でも仮想世界の中では人気者になれるということは、現代のインターネットにも共通したいところだなと思った。しかし、アバターの状態では正体がわからないので、それを利用すればいいことも良くないこともできてしまうということ、少し残念だなと思った。

娘（鈴）の悲しみや苦しみを思うと、もし自分なら絶対に自分の子を残して他人の子を助けるようなことはできないな、と思った。

二つ目は、仮想世界「U」の嫌われ者である「竜」というアバターの正体を暴こうとする運動が起こったということだ。私は、いくら竜が「U」の中で嫌われていても、正体を暴くということは「U」のセキユリテイシステムを台無しにしてしまうから、誰に対してもしてはいけないことなのではないか、と思った。しかし、「U」の中で竜に対して容赦のない誹謗中傷などがされているのを見て、「なぜ自分がされたら嫌なはずなのに竜にはできるんだろう」と疑問に思った。

そして、私は「U」の問題点について考えた。私が思うに「U」は現代のインターネットより優れているといえるが、問題点は現代と同じではないだろうか。というのは、現代で問題になっているインターネット上の差別や偏見、誹謗中傷だ。このようなことが「U」の中でも起こっている、その原因は前にも書いた「人それぞれの価値観」がぶつかり合ってしまうことだと私は思う。そして、問題の解決のためには、インターネットを利用する側である人間が「人それぞれの価値観」を理解し合い、それを認め合っていくことが大切なのだと思う。

その解決に向けて進んでいこう、という勇気をこの本は与えてくれたのだ、と私は考える。

正直、今の私にできることは少ないが、これからの人類が共に理解し合い、インターネット上でなく世界中の差別や偏見、誹謗中傷によって「心の傷」をおっせしてしまう人たちが少しでも減ってほしいと願う。

日本で今、深刻な問題。それは人の死の方について。一人の少年の通報から発覚した「安らかで苦痛のない死」を提供する医師。捜査一課の犬養隼人は少年の母親が「ドクター・デス」を名乗る人物が開設するサイトにアクセスしていたことを突き止める。「ドクター・デス」とは一体何者なのか。

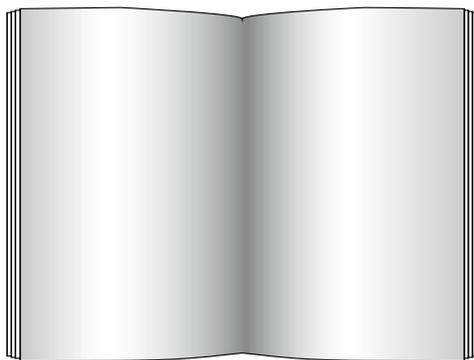
私がこの本を選んだ理由は安楽死についての知識が少なかったからだ。数年前、難病を抱える患者が医者に安楽死を依頼し、亡くなったというニュースを見たことがあった。そのとき、私はまだ小学生で知識も多くなか軽く受け流していた。しかし最近「死」についてのニュースが増え、私自身も将来や死について考えるようになった。なのでこの本を読んで安楽死の知識を深めようと思った。

私はこの本を読んで、安楽死について考えさせられた。日本では現在、医師が患者に薬物を注入する、いわゆる積極的安楽死は認められていない。この積極的安楽死が認められている国や地域は少な

まず一つ目は、鈴が幼い時に鈴のお母さんが、川に流されそうな女の子を助けて死んでしまったことだ。このとき私は、「なぜ自分の娘を残してまで他人の子どもを助けて死んでしまったのだろう」と思った。確かに、「このままでは死んでしまう子どもを助けないという気持ちや、当時の状況などを考えると、冷静な判断をすることは難しいのかもしれない。しかし、それよりも母を失ったときの

疑問に思った。しかし、これらのことについて疑問に思ったのはあくまでも「自分の価値観」と違っていただけで、自分と違った価値観から見ればこれらのことについて何の疑問も持たない、という人がいるのも当然のことだ、自分が疑問を持つたからといってそれを押し通すのは良くないな、と思った。

最後に、作者がこの本を通じて私たちに伝えたかったことを考えた。この本には、現代のインターネットと似た表現が多くあり、その中には現代のインターネットで起こっている問題点も描かれていた。それに対して立ち向かっていく主人公の鈴や仲間たちが抱えているインターネット上の問題点を明らかにし、



『ドクター・デスの遺産
刑事犬養隼人』
を読んで

月形中学校2年
佐々木 爽汰

く、安楽死を望む患者が合法となつて国へ渡航することがある。私はこの本を読むまで、「生きていけば何か楽しいことがある」と考え、安楽死には反対派だった。しかしこの本を読んで「生きる権利があるのならば死ぬ権利もあるのではないだろうか」と考えるようになった。

私はこの本を読んで思ったことが三つある。

一つ目は、犬養隼人刑事の話術についてだ。本書には亡くなった方の会社の方や遺族の方と質疑応答するシーンがいくつもある。この質疑応答の中で攻防を繰り返している、戦闘をしているかのような気持ちになる。

二つ目は、ドクター・デスに安楽死を依頼した人たちに ついてだ。私には当然ながら子どもや配偶者はいない。愛する人が重い病気で苦しんでいるという気持ちはわからな いが、痛みを想像することは できる。将来、自分の家族が できた時にその家族が病気で 苦しむ、安楽死を望むのなら ば私はそれを受け入れるだろ

う。幸せに生きてほしいのはもちろんだが、人が苦しむ姿を見るのは耐えられないから だ。安楽死を依頼した人々も そういう気持ちだったのだから、わたしは本当に嬉しかったん です。きっとあの人も同じ気持ちだったと思います。 苦しめないということがどれ だけ幸せなのか、刑事さんには理解できないでしょうね。 やつと、私たちは苦しみから 解放されたんです。ドクター！ デスには感謝してもしきれま せん。」と言っている。馬籠 小枝子はお金と体力、気力を 消耗したといっているが、私 は苦しむ姿を見るのが苦し い、その苦しみから二人は解 放されたとも考えている。

感謝している。その感謝は「苦しみから解放してくれた」という気持ちからだ。私がおし 安楽死を依頼し安らぎを与え てくれたのなら私は感謝す る。たとえ法律で認められて

いなくても。安楽死を行つて くれた人に失礼だし、耐え難 い苦しみから解放してくれた からだ。依頼主の気持ちには 共感できることがある。

三つ目は、外国の社会に ついてだ。今も戦争で重傷 を負っている人がいる。手術 を行う場合は麻酔を使う。そ の麻酔がない地域がある。手 術器具を消毒するには消毒液 を使う。その消毒液がない地 域がある。消毒に限らず水や 食料が不足している地域もあ る。これは今とても重要な問 題だと思っている。と言つて も私にできることは食料、水 などを無駄にしないなど少な い。一人の力だとはできること は少ないので皆が意識を持つ て行動することが重要だと思 う。

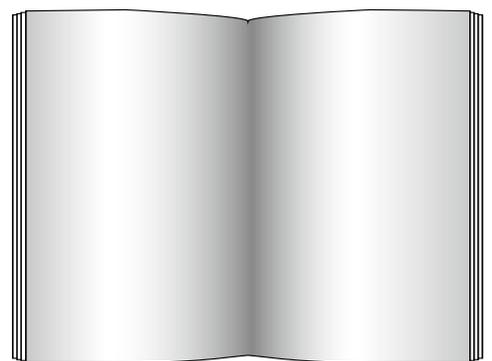
私はこの本を読んで人の命 について学んだ。安楽死が認 められるには主に四つの条件 が満たされなくてはならな い。一つ目は「回復の見込み がない」、二つ目は「耐えが たい苦痛がある」、三つ目は 「代替治療がない」、四つ目は 「本人の明確な意思がある」。

この条件が全て満たされる場 面はそうそうない。しかしこ の条件が全て満たされたから と言つて人の死期を早める行 為には殺人罪になる。「人を殺 した」という事実が変わりは ないからだ。

私は安楽死は認められるべ きだと考える。自分にとつて 悪いことだと思つていること が他の人から見れば正しいこ とだということがある。人は それぞれ事情を抱えているか らだ。人の死に方も同じで、 安楽死が悪いことだと思つて いる人もいれば、私のように 良いのではないだろうかと思 う人もいる。そこには人それ ぞれの意見や考え方があり、 どちらかが納得するまで討論 は続くだろう。

私はこれまで安楽死が認め られるべきだと述べてきた が、他の人の意見も聞きたい。 この文章を読んだあなたに問 いたい。 あなたは安楽死が認められ べきことだと思うか。

この物語は第三者目線で語 られており、登場人物の気持 ちはあまり詳しくは書かれて いません。あつたことが淡々 と書かれているのです。その ため「自分だったら立ち直れ ないかも」などと心の中で 自分の気持ちを呟きながら 読めました。物語にのめり込 みすぎず、現実の自分と照ら し合わせながら読むことがで きる、それがこの本の良さな のではないかと私は思いまし た。



人間の生き方とは何か

月形中学校3年

目黒好香



この物語は第三者目線で語 られており、登場人物の気持 ちはあまり詳しくは書かれて いません。あつたことが淡々 と書かれているのです。その ため「自分だったら立ち直れ ないかも」などと心の中で 自分の気持ちを呟きながら 読めました。物語にのめり込 みすぎず、現実の自分と照ら し合わせながら読むことがで きる、それがこの本の良さな のではないかと私は思いまし た。

「希望の火はひとまわり小さくなったが、炎の色の明るさは以前と同じ。それどころか、いつかは焼いてみたいという思う作品のイメージを、毎日のように思いえがいていた。」この物語の主人公である少年「モギ」が、焼きもの師として、ろくろを回したいという気持ちを表している二文です。これが、私は一番記憶に残りました。この本では数少ない主人公の心情が書かれた文だからです。モギの「ろくろを回したい」という思いの強さの表れなのだと思います。

モギは橋の下で暮らしており、決して裕福で満足のいく暮らしとは言えません。それでもモギは、自分の目標に向かってひたすら努力を続け、絶望の淵に立つてもなお希望を捨てることはありませんでした。誰かに頼るばかりではなく、自分で「ああでもない」「こうでもない」と、夢に向かって一生懸命に生きているのです。

モギには「トゥルミじいさん」と呼んでいる血の繋がら

ない育ての一人親がいます。トゥルミじいさんは片足が不自由です。そんな中でも、モギと共に橋の下で暮らしています。貧しくても人としての情けと誇りを忘れず、モギをたった一人で支えている、頼りになる存在なのです。

モギの尊敬する焼きもの師であり、親方でもある「ミン」は青磁作りに一筋に生きる頑固で真つ直ぐな人です。

そして、ミンの奥さんは、あたたかく我が子のようにモギを見守る優しい人です。

この物語の登場人物四人を紹介しました。この四人はそれぞれ違う生き方をしています。そして、この四人の生き方は人間の本来あるべき姿なのではないでしょうか。四人はそれぞれどんなことがあつ



ても希望を忘れず絶対にあきらめない心を持つこと、思いやりを持って行動すること、真面目に自分に正直に生きること、人に優しさとあたたかさを持つて接することができるとは簡単なことですが、実行するのは難しいことです。この物語の舞台は十二世紀の韓国ですが、筆者は「時代は変わっても人間のあるべき姿は変わらない」ということを伝えたかったのではないのでしょうか。

この本を読んでいると聴き慣れないカタカナの単語がいくつか出てきます。モギもその内の一つです。「モギ」は韓国語で「キクラゲ」を意味するそうです。トゥルミじいさんの「トゥルミ」は「鶴」を意味するそうです。他にもこの本では、古くからのならわしやプロという落花の岩についても書かれています。このように、この物語は韓国の文化や歴史についても知ることがができます。

この物語は私に、夢を持つことは自由であることを教え

てくれました。そして、諦めずに努力し続けることが大切であり、報われない努力もあるのだということも教えてくれました。短く楽に夢を叶える道はなく、夢に時間をかけてゆつくりと叶えていくしかないのだなと思いました。

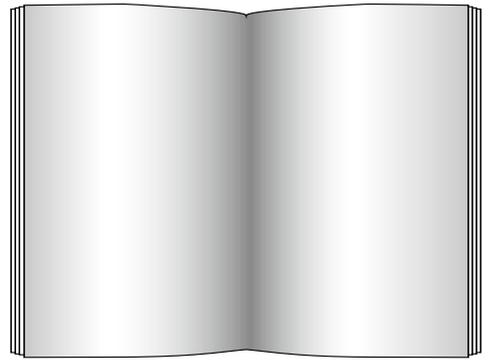
私も、モギ達のように常に前向きに物事を考えることができ、他人のことを思いやることのできる人になりたいです。漫画やアニメに出てくるヒーローのように世界を救うなどといった大きなことではなく、電車やバスで席を譲ったり、ポイ捨てされたゴミを拾うなどといった小さなことから行動していきたいなと思いました。自分が思いやりの行動をとることで、周りの人も思いやりのある行動をとり、その周りの人も行動する、そして巡り巡っていつか自分

に帰ってくるようなことになれば良いなと思いました。私はこの本を読んでそう思うことができました。本にはそれだけ人を動かす影響力があるのです。きっと、人は何かきっかけがあれば行動することが

できると思います。人によって価値観などが違うため対立することはありますし、それを無くすことはできないのでしよう。しかし、きっかけさえあれば互いに認め合うことができるかもしれません。私はそのきっかけになりたいなと思えました。もしも、自分がとった行動で誰かが救われたら、どんなに嬉しいことでしょうか。今言ったことを全て完璧にこなすのは難しいですが、少しずつ誰かのためになる行動をとれるようになりますかと思えました。

READING BOOK





『のび太』という生き方
を読んで

月形高校3年
福井 大翔

自分はこの程度の人間なんだ、とたまに思います。物事に取り組んでもうまくいかず、それで気分が落ちこんでしまったりします。みなさんにはそういう経験はあるでしょうか。そんなときに出会ったのが今回読んだ本『のび太』という生き方という本です。

ドラえもんに出てくるのび太の生き方を筆者が考察しているこの本について、印象に残ったところを書いていき

たいと思います。

ドラえもんには、出木杉君というキャラがいます。彼は勉強もできて、運動能力も高く、女子からモテモテというまさに完璧すぎる人間です。のび太君とは正反対でした。しかし、そんな彼にも欠点があります。ある話では毎日宿題をやつてきてテストも毎回百点を取り、先生とクラスメイトからは褒められるばかり、「頭がいいのね」と言われ彼は、「こんなの大したことはないよ」と言いはなちます。のび太君は不満に思いました。「何が大したことないだ」と。別の日、出木杉君を野球に誘ったジャイアンは、クタクタにさせて宿題をできなくさせてやろうという作戦を立てましたが失敗し、逆に自分たちがクタクタになってしまいました。ジャイアンとスネ夫とのび太君は大量の宿題が心配になり騒ぎ出しますが、

出木杉君は「平気だよ、あれくらい。十分もあればできるよ」と言いはなちました。出木杉君はIQが高そうです。しかし対人関係能力は低いと

思います。どんなに有能でも周囲の気持ちに配慮できる思いやりや優しさ、柔軟性のあることが大事であるといえる

と思います。それが出木杉君にはなく、のび太君にはあるのです。私も出木杉君のような人と中学校を過ごしたことがありません。その人は男子で、頭が良く成績も学年トップクラスでした。しかし、クラスメイトに暴言を吐いたり、見下したりする男子で全く好かれていませんでした。この出木杉君と似たようなものを感じました。僕の中学のその男子のように、どんなに成績が優秀でも対人関係の維持が下手だったり、維持しようとしなかったりする人は、他人からもあまり善人だと思われません。最終的に一番大事になってくるのは、周囲の気持ちを配慮できる思いやりや優しさ、柔軟性なんだということとを改めて感じました。

ドラえもんのお話で「ハッスルねじ」という秘密道具を使う話があります。のび太君は学校の給食を食べるのが遅く、昼休みも遊ばせません

た。算数の授業では質問に答えられず先生に叱られて、ジャイアンとスネ夫と下校中

駆けつこをしますが、まったく歯が立たずノロマと言われてしまいます。のび太君は涙を流してしまいました。のび太君はドラえもんに「どうしてノロマなんだろう」と相談し、ドラえもんは秘密道具のハッスルねじを出します。のび太君はねじを付け巻くと動きが高速になり、あつという間に宿題を終わらせ、野球場に行き打席に立ちます。のび太は軽くバットで打っただけでホームランとなり、チームを勝ち導きました。

みなさんが思っている通り、のび太君はのんびりした男で、単純なことでもものすごく時間がかかります。しかし、のび太君はひとつひとつの課題を克服しようとしたけど、うまくいかず涙を流します。そこでドラえもんはようやく道具を出すのです。最終的にのび太君は問題を解決します。のび太君が夢を叶えられるのは、絶えず夢に向かって進んでいるからです。その

中でも特筆するのが、夢もただ頭の中でぼんやり考えるだけでなく、声に出して自己宣言していることです。のび太君のように、他の誰かに積極的に話してみることが大事だ

と思えました。私も考え事をよくします。今でいえば進路だったり、勉強のことだったりします。僕は深く考え込んでしまう癖があり、どうして外だと、ためらったりしてしまいます。でもこれを聞いて自分の深く考え込んでしまう癖を減らし、友人たちに積極的に話してみようと思えました。私は今回この本を読んで、のび太君は実に凄いヤツだと感じました。何事にも諦めず自分から積極的にいくのび太君のように僕もなりたと思います。今後何かあったら、この『のび太』という生き方という本を大切にしていきたいです。

ドラえもんのお話で「ハッスルねじ」という秘密道具を使う話があります。のび太君は学校の給食を食べるのが遅く、昼休みも遊ばせません

